

100年に一度の進化するまちの様子をお届け

長崎MIRAISM

誰もみたことのない未来図を、いっしょに描こう。



海を渡って長崎にやってきた新幹線「かもめ」。レールに乗って、市内を走る姿が楽しみです。

9/23 西九州新幹線開業決定!

新幹線の開業とともに大きく進化する新・長崎駅



昨年の西口駅前広場の完成や出島メッセ長崎の開業など、長崎駅周辺は日を追うごとに変化しています。今年はいよいよ、9月23日(祝)に西九州新幹線が開業。「100年に一度」とも言われる進化の様子がまた一つかたちになり、まちの変化をいっそう感じられます。

「つつい寄り道したくなる!」長崎駅改札前に新施設オープン

新幹線開業より一足早く、「長崎街道かもめ市場」が3月18日(金)にオープン。長崎を存分に堪能できるご当地グルメが並び、目の前で調理された料理や長崎の地酒などを味わえます。



問い合わせ

広報戦略室 ☎829-1300

詳しくはホームページ・SNSをチェック!

長崎Miraism

長崎ミライズム

@MIRAISM3

江戸時代、長崎街道は北九州市の小倉と長崎を結ぶ重要な道でした。長崎での貿易によって国外から入ってきたさまざまな文物が、この道を伝って日本の西の端長崎から東へと運ばれたのです。砂糖もその一つです。

当時、砂糖はとても貴重でした。その砂糖が東に運ばれる間に、菓子作りの技法も一緒に伝わり、長崎街道沿いのまちには有名なお菓子や砂糖文化が生まれていきました。諫早おこし、大村寿司、小城ようかん、佐賀の丸ぼうろ、福岡の鶏卵そうめん、飯塚のひよ子、北九州の金平糖などです。

これが、長崎街道が「シュガーロード」と呼ばれる理由です。

シュガーロードは、令和2年度に「砂糖文化を広めた長崎街道〜シュガーロード〜」として日本遺産に認定されました。

市長の「ホッ」とトーク

(今月のテーマ)
シュガーロード



「遺産」とはいつても、長崎街道沿いの砂糖文化は今も多くが健在。シュガーロードの出発点である長崎では、カステラや有平糖、一口香などいろいろなお菓子が今も人気を博しています。

いいえ、お菓子だけではありません。長崎は醤油をはじめいろんなものが甘めだとよくいわれます。歴史は、遠い昔ではなく、今も暮らしの中に生きていますね。

* * *

カステラは、ポルトガルのパン・デ・ローというお菓子から変化したものだという説があります。でも、パン・デ・ローからはかなり変化しているので、知らずにパン・デ・ローを食べた人はカステラの元祖だと気づかないかもしれません。つまり、カステラは江戸時代の職人たちが工夫に工夫を重ねて創作した「和菓子」なのです。

何百年も続き長崎銘菓をつくってくれた江戸時代の職人さんたちに感謝です。そして、今も日々おいしいスイーツを考えてくれる長崎のパティシエたちにも感謝です。スイーツは、昔も今もたくさん笑顔をまちの中につくってくれるからです。



パン・デ・ロー